

高津区内平瀬川護岸改修（その6）工事 工事説明会 主な意見書への回答

意見1	高津区内平瀬川護岸改修（その5）工事は2年契約だったが1年で工事が完了してしまい、当初の工期算定や予算の立て方が甘かったと思うので、高津区内平瀬川護岸改修（その6）工事は同じことが起きないようにしてほしい。
回答	発注の段階では過年度工事を請け負った等の条件は考慮せず、一般的な業者が請け負った場合の工事工程で設計を組んでおります。高津区内平瀬川護岸改修（その5）工事は高津区内平瀬川護岸改修（その4）工事を受注していた鹿島建設株式会社が受注しており、現場に精通していたため、スムーズに現場に入ることができたと考えております。 高津区内平瀬川護岸改修（その6）工事の進捗状況につきましては、定期的に皆さんにお知らせしてまいります。

意見2	前橋右岸側の駐車場のフェンスを撤去し、通行できるようにするが、この通路は法的に道路扱いになるのか。あらゆる車が通り、駐車場の時とは環境が変わるため、管理はどうなるのか。
回答	仮の通路であるため、警察の管理にならない道路となります。 従いまして、駐車場の利用者、迂回しないと通れない方のみ通行可能な通路となるため、出入口に関係者以外通行禁止と明示します。

意見3	護岸改修工事がすべて完了すれば、昔のように洪水がなくなるのか。
回答	市内の河川は1時間に50mmの雨が降っても対応できることを目指しており、平瀬川はすでに50mm対応になっております。 本工事は変状を抑えるために鋼管杭を打つ工事で50mm対応は変わりません。なお、将来計画の時間雨量90mmに改良できるような状態になっております。

意見4	前橋上に一時的に設置した仮設構台を歩行者が通行するときに階段が急なので高齢者は通れるのか。
回答	階段の角度を緩くすることは難しいため、手摺につかまりながらスロープを通行していただくか、施工中は誘導員を配置しているので、必要に応じてサポートを受けながら渡っていただきたいと考えます。

意見5	今回工事がその6工事だが、そのいくつ（数字）までなのか、いつ終わるのか全体像がわからない。
回答	今後はまだ杭を打ってない箇所に杭を打ち、その後コンクリートの護岸を作っていく工程であり、目標としては令和10年を見込んでいます。国庫補助事業なため、補助の動向により施工規模が変わるので予算確保に向け国土交通省と協議していきます。

意見6	大型工事車両の振動や工事の揺れを減らすように努めてほしい。
回答	低騒音の重機を使用し、振動、揺れの軽減に努め、近隣住民の方々に配慮して施工いたします。

意見7	高津区内平瀬川護岸改修（その5）工事の際に道路舗装をし、表面上見た目は凹んでいたりしないが、舗装下の状態や測量データでは問題ないのか。
回答	定期的に測量を行い、経過観察しております。舗装下の状態は硬い路盤だったため現状問題ないと考えます。なお、護岸完成後に全面舗装いたします。

意見8	家屋と道路の間に隙間が生じてしまったり、道路のクラック幅が広がってしまう理由。
回答	本現場は軟弱地盤であったことで河川の護岸に変状が生じたことから、道路のクラックが発生したものと考えております。本工事により、鋼管杭を設置することで、護岸の変状を抑えられると考えております。

意見9	鋼管杭設置完了後に護岸コンクリートを施工するが、それまでの間、止水柵と鋼管杭の状態耐久耐震や耐水は大丈夫なのか。
回答	既存護岸の高さまで、止水柵を設置し、越水対策を行っております。耐震性を考慮して鋼管杭の規格を決めており、止水柵はH型鋼を打込んで溶接するため、耐久性は問題ないと考えます。

意見10	その5工事の際に家屋損失補償が必要になった事例とどのように対応したか。
回答	高津区内平瀬川護岸改修（その5）工事の家屋損失補償は現在手続きを進めており、完了しておりません。過年度工事の際は、工事後に補償コンサルタントが家屋を調査し、事前調査と比較し、工事に起因する新たな損傷や損傷の拡大が確認された箇所の補修費用を算定しました。個別に算定された費用を川崎市が金銭補償しております。

意見11	その6工事の完成形はその5工事のようにコンクリート護岸を形成しないのか。
回答	高津区内平瀬川護岸改修（その6）工事は高津区内平瀬川護岸改修（その5）工事と同様に鋼管杭設置完了後、止水柵設置まで行います。コンクリート護岸は鋼管杭を全て設置完了後、施工いたします。